

病院情報システムにおける医科・歯科・他職種間の連携に向けた取り組み

伊藤 豊

北海道大学病院医療情報企画部

Some measures about collaboration and cooperation between medical and dental section in hospital information system

Itoh Yutaka

Hokkaido University Hospital Div. of Medical Informatics and Planning

10years have been past from integration between our medical and dental hospital. Now we use common EMR system in medical and dental section. However the system was separated by occupational categories in itself and they are hindrances in collaboration and cooperation. So we tried to develop new systems, which give positive support to team care. Especially oral health care support system has a continuous management from request at ward in medical section to finish dental clinical intervention. Furthermore it supports a visit at medical wards by dentists and dental hygienists. And we will improve about oncotherapy in near future. However the differences of consciousness between members of medical and dental staff are still recognized in our hospital and we will have to strive to overcome the problems continuously.

Keywords: collaboration and cooperation between medical and dental section, Hospital Information system

1. はじめに

北海道大学病院(以下、本院と略。)は、平成15年の医科歯科統合から10年を迎え、現在統一患者IDを用いた電子カルテシステムによる1患者1カルテ運用を行っている。当該システムは、医科歯科とも同一ベンダーによる構成となっており、患者をキーとしてほぼ全ての情報の集約・統合・共有は達成されたとと言える。しかし、これらの多くは職種毎に別れ、また登録業務を主体とした画面構成となっている。このため、チーム医療など同時に複数の部署及び他職種にまたがる業務を行う場合、その経過記録の閲覧・作成などを個別に行う必要があり、非常に煩雑である。そこで次期システムにおいては、これらの解消に取り組むとともに、特に多職種連携によるチーム医療を病院として積極的に支援する為のシステムを新規開発導入する事とした。すなわち、現場からの依頼発生から介入及び進捗管理、チーム内カンファレンス、日々経過記録、終了報告までの一連の業務を一体的に管理支援する一方で、チーム毎にバラバラになりがち画面構成や操作性、HIS本体との情報共有・連携等に関しては病院として統一性を持たせる事を意識した。

今回、これら次期システムに向け開発中の連携システムの主なものについて紹介するとともに、その過程において発生した問題等について報告を行う。

2. 歯科関連の連携システム

糖尿病ケア支援システムやNST支援システムにおいては、仕様作成の当初から歯科医師、歯科衛生士の介入を前提に作業を行うこととなった。また、口腔ケア管理システムにおいては従来困難であった歯科外来における医科からの依頼発生から複数歯科診療科による短期間濃厚介入及びその進捗管理、終了レポートまでを一連のものとして扱う事に加え、医科病棟からの往診依頼についてもカバーすることで、歯科における対医科介入を一元的に管理することを目指したものとなっている。

2.1 口腔ケア管理システム

歯科外来における医科移植治療等前の口腔内感染

源除去への短期間歯科内複数科連携した濃厚介入を円滑に行うため、依頼から診断、担当医振り分け、治療計画の立案、進捗管理を一貫して行うことに加え、外来受診できない患者に対しての病棟往診管理機能等を持たせることで、医科歯科連携をワンストップで行う事を目指している。また、介入患者への歯科衛生士や看護師などの記録も同時に登録管理する機能も用意することとした。

2.2 NST支援システム

口腔内の環境因子は、患者の栄養摂取能力に直接影響を与えることから、NST介入患者に対する歯科医師の評価を管理する専用画面を初めから用意することで連携を円滑に行うことを目指している。

2.3 糖尿病ケア支援システム

現在、本院の糖尿病教育入院患者のカリキュラムに歯周病専門外来における口腔内診査が組み込まれている。このため、チームカンファレンス内に歯科医師の評価を反映させる仕組みを用意することとした。

3. 開発における問題点と対応

3.1 操作負担の軽減と二重登録防止

医療介入を行った場合、その記録を残すことが必要で、歯科医師の場合は歯科診療録を、歯科衛生士では歯科衛生士業務記録が必要となる。また看護師であれば看護計画および看護課程記録が必要となる。これらは、既存システムとして導入されており、各々の特性に合わせた専用システムとなっている。このような状態で、さらにチーム医療向けのシステムを構築しようとした場合、そのまま単純に参照及び登録画面を構築してしまうと、操作者の負担が増えるだけでなく、記録自体が二重発生してしまうことで医療事故等の温床になりかねない。このため、本院のシステムにおいては、入力自体は従来のシステム側で行うこととし、その情報を集約し表示した上で、さらにリンクボタン等で親となる画面に少ない操作で遷移できることを基本とする作りとした。また、口腔ケア管理システムの感染源除去介入における治療進捗管理では、シンプルな構成とする

ことで、操作ミスを防ぐこととした。

3.2 病棟医師、看護師との連携

医科病棟入院中の患者に対して、歯科介入を行った場合、病棟主治医や受け持ちNsとの連携も考える必要がある。しかし、残念なことに本院においては、歯科外来診療録や歯科衛生士の業務記録簿を医師看護師に積極的に参照してもらうことが難しい現実がある。その上で新たなチーム医療画面を周知し閲覧してもらう事は、非常に困難であることから、既存の病棟指示簿や電子温度板、看護記録画面からなる患者看護支援システム内に、必要な場合コメントを送信し表示する仕組みとした。また主治医に対して特に必要と思われる場合には、電子お手紙を作成することで確実に情報の伝達を行うこととした。

3.3 医科歯科間双方の温度差

本院が医科歯科病院統合してから10年となるが、当

初想定したシナジーが実現できておらず、あっても部分的である。今回の実装協議等においても、医科歯科双方の職員が積極的に参加し進められたのは、残念ながらNSTの部分だけである。特に口腔ケア管理システム構築の際に、歯科側から医科病棟側と積極的に連携しようとする動きがみられなかったのは、非常に残念であった。また外来化学治療や緩和ケアチームとの連携についても、歯科側の受け入れ体制や組織の問題もあり、限定的なものにとどまっており、患者へのワンストップサービスの提供までは、至っていない。今後は、これらの問題を順次解決し、真の医科歯科一つとなった医療サービスが提供できるよう、努力を続けていこうと思う。